

## 第 27 回 日本臨床エンブリオロジスト学会からのホットなお知らせ

大会抄録集が 12 月発行ですが、今回抄録集の表紙を描いて下ったのは漫画家&イラストレーターのホタテユウキ先生です。

皆様、只今絶賛上映中の『恋する寄生虫』をご存じでしょうか？ (<https://koi-kiseichu.jp/>)  
林遣都さん、小松菜奈さん、井浦新さん、石橋凌さんという豪華俳優陣が出演する今話題の映画です。その原作の漫画を描いたのがホタテユウキ先生です。

ORIGINAL

三秋緋「恋する寄生虫」  
(メディアワークス文庫/KADOKAWA刊)



これは、「虫」によってもたらされた、患者たちの恋の物語。  
何かの何までまともではなくて、  
しかし、物れもなくそれは恋だった。  
「ねえ、春坂さんは、こんな墓に寄ったことはない？ 自分はこのまま、誰と愛し合うこともなく死んでいくんじゃないか。自分が死んだとき、涙を流してくれる人間は一人もいないんじゃないか」  
失神中の青年・高坂賢吾と不意中の少女・佐藤ひじり。一見何もかもが噛み合わない二人は、社会復帰に向けてリハビリを共に行う中で惹かれ合い、やがて恋に落ちる。しかし、普通な日々はそう長くは続かなかった。彼らは知らずには二人の恋が、「虫」によってもたらされた「壊れ人間の恋」に過ぎないことを――。

コミックス全3巻も好評発売中



漫画：ホタテユウキ / 原作：三秋緋 / キャラクター原案：しおん・ホタテユウキ  
(原刊：メディアワークス・文庫 / KADOKAWA)

最初にホタテユウキ先生のご紹介をしたいと思います。

ホタテユウキ先生は・・・

『1998年生まれ、神奈川県出身の漫画家、イラストレーター。18歳の時に「アフタヌーン」の四季賞・秋のコンテストにて佳作を受賞。その後、月刊少年エースにて「恋する寄生虫」のコミカライズで漫画家デビュー。アナログ原稿であることを最大限生かした精緻なペンタッチと描き込み、繊細なトーンワークで、その独特な世界観を表現し人気を博す。「恋する寄生虫」の映画化も決定した。』

表紙のコンセプトをホタテユウキ先生に聞いてみました。

『純粋な子供らしさは時に鋭い心理を射抜くときがあると私は考えます。子供から学習するものが多いのも同じで、私はどこか幼稚さからは無限の“学び、があるように感じます。今回この絵にはその両極的なのに切っても切り離せない“幼稚さ、と“知性、その二つを織り交ぜてみました。』

ホタテユウキ先生の独特な感性から生まれた表紙は、なかなか奥が深く、我々エンブリオロジストを鋭い視点が見ているなと感じました。ホタテユウキ先生のコメントにもある『幼稚さ』は今回参加されたやる気に満ちた、これから大いに成長していく ART 世界の希望の皆

様を、そして『知性』は今よりももっと多くの斬新な知識を今回の大会で刻み込んで頂きたい、という意味を抄録集の表紙に託しました。

最後に、ホタテユウキ先生より「林遣都さん小松菜奈さんのW主演の豪華俳優陣でお送りする『恋する寄生虫』をよろしくお願いします。」とのことでした。イベント開催も緩和されましたので、感染対策をしっかりとしながら映画を見て、学会に参加しましょう！

そして、もう一つ大ニュースです。今回、横浜の地に足を運んでくださった参加者の皆様に抄録集の表紙が描かれているコンgresバックをお配りします。ホタテユウキ先生がエンブリオロジストのために描いてくださった世界に一つしかないバックです。ぜひ、思い出としてお持ち帰りください。

大会長 家田祥子